

平成26年度 部局自己評価報告書（教育学研究科）

Ⅲ 部局別評価指標

- 1 東北大学グローバルビジョンにおいて各部局が定めた「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策または部局第2期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果
- ※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

1. グローバルリーダー育成のための教育改革

現在、概算要求特別経費による5年間の事業として「アジア共同学位開発プロジェクト」に取り組んでいる。今年度は、その4年目に当たる。

①今年度は「アジア共同学位開発プロジェクト」の一環として、AEL (Asia Education Leader) コースを立ち上げ、実施する。このコースは大学院博士前期2年の課程の学生を対象として、日本、台湾、中国、韓国の4カ国の学生が各国を2年間で2～3週間ずつ回りながら、グローバルリーダーとしての資質を高めることを目的としている。

②東北大学（日本）、国立政治大学・国立台湾師範大学（台湾）、南京師範大学（中国）、高麗大学（韓国）の各大学から5名程度の学生を募集している。東北大学では、現在8名の学生が志願している。

③7月19日から開始されるAELコースを東北大学で実施する。約20名の学生が応募している。このコースでの授業はすべて英語で行う。また、2015年1月～2月にかけては国立政治大学（台湾）でウィンターコースを実施し、東北大学からは5名程度の学生を派遣する。

2. 世界を牽引する最高水準の研究への挑戦

英語による授業及び国際的情報発信力を強化する。具体的には、以下の2つの事項を実現する準備を進めている。

① 優秀な外国人教員を採用し、国際研究業務を担当する組織を作る。外国人教員については、平成26年4月にプロジェクト教員として1名採用したが、英語による授業が可能な教員として新たに1名採用する。

②研究の成果を世界に発信するために英文のジャーナルを発刊する。7月の教授会で編集規程を提案し、9月に原稿募集を開始、12月に原稿締め切り、2015年3月に発刊の手順を進めている。

3. 東北大学復興アクションによる支援の充実

教育学研究科では、現在、「震災子ども支援室」による震災遺児・孤児及び里親などに対する支援、東北大学復興アクション100+に基づく、「教育という視点からの復興支援」に取り組んでいる。現在、以下の計画を進めている。

① 学校現場に対する支援を強化するために、教員、保護者、子どもへの個別的支援と同時に教員を対象とした研修会、スクールカウンセラーを対象とした研修会を実施する。

②WHO、戦争トラウマ財団 (War Trauma Foundation) のディレクターであるM. ブラウ氏を招聘し、教員及びスクールカウンセラー向け研修会を実施する。

③11月に研修会を実施する方向で現在調整を行っている。また、2015年3月の国連防災世界会議では、「震災子ども支援室」などの取り組みについてのプレゼンテーションを行う。